

「存在感と魅力ある企業」を目指して



まず、本書に関心をお持ち頂いた皆様に感謝申し上げます。

近年、CSR(Corporate Social Responsibility—企業の社会的責任)という言葉が経済界のみならず一般社会にも広く浸透してきています。富士重工業(スバル)では、このCSRは正に企業活動そのものであると理解し「環境」、「コンプライアンス」、「社会貢献」をはじめとした様々な取り組みを積極的に行い、「企業市民」として社会に貢献することが当社の使命であると考えています。

今般、すでに取り組んでいる各分野における活動や考え方を整理するとともに、企業としてのベクトルを合わせ、よりよい成果に結びつけるため「CSR方針」を策定いたしました。今後もこの方針に則り、社会の期待に応えるべく諸活動を進め「存在感と魅力ある企業」を目指してまいります。

さて、環境面では「地球に優しいインテリジェンスカンパニーを目指す」という経営目標を掲げ、「クリーンな商品を、クリーンな工場から、クリーンな物流により、クリーンな販売店を通して、お客様にお届けする」という考えのもと、環境ニューボランティアプラン「富士重工 環境保全取り組み計画(2002年度～2006年度)」を策定して、積極的に地球環境保全に取り組んでおります。現在までのところ、特に生産段階における廃棄物削減や省エネルギーに顕著な成果をあげることができました。

CO₂の削減につきましては、本年2月に京都議定書が発効されたことにより、産業、運輸、民生の各分野に対し一層の削減が求められるようになりました。当社におきましては、環境ニューボランティアプランの成果として、工場などにおける省エネルギーの推進は勿論のこと、天然ガスコージェネレーションシステムの導入などにより、計画を上回るCO₂削減を実施しており、政府が求める削減要求にも応えてまいります。また、製品面におきましても、当社の主力商品であります自動車については、軽量化技術などを通じた燃費の改善や、自動車以外でも、省燃費の汎用エンジン、風力発電システムなどの製品を通してCO₂削減に努めております。

また、本年1月に自動車リサイクル法が施行されましたが、当社では、同法に準拠した資源リサイクルの対応を行うことはもちろんのこと、リサイクルしやすい製品の開発にも努めております。

これらを含む環境活動をより有効なものとするため、当社では環境マネジメントシステム(ISO14001)の構築を進めております。すでに当社の本社を含むすべての事業所や国内外の関係会社の製造工場はこれを取得しておりますが、加えて国内のスバル特約店や海外のスバル販売会社にも同システムの構築を進めております。

最後になりましたが、当社は本書に掲載された各方面の取り組みが、持続可能な社会の形成のみならず、当社自身の未来にとっても不可欠な活動であると信じて、皆様の期待に応えてまいりたい所存です。

代表取締役社長

竹中恭二



環境問題への取り組みについて

企業は商品やサービスの提供といった直接的な事業活動でお客様のニーズに応えるだけでなく、法令の遵守、環境保護、人権擁護、消費者保護など企業活動全般に亘っても責任を有しています。私たちは従来より積極的にこれらの社会的責任を果たし、企業価値創造にも資するべく努力を続けております。特に、環境への取り組みは、地球環境保全により社会の健全な発展へ貢献する重要な課題と位置付けております。

2004年度の活動を振り返って

当社においてはISO14001認証取得のサイトの拡大を進め、関係会社においてもスバル販売特約店や国内外のグループ企業で新たに認証を取得する企業が加わり、EMS^{*1}の構築がさらに進みました。また、製品面では、走りと優れた燃費性能を両立した新型軽自動車スバル「R1」を発売しました。さらに、生産面では、宇都宮製作所で天然ガスコージェネレーションシステムを導入するなど、各事業所で地球温暖化防止のための対応を行い、事業所からのCO₂排出量は前年度実績に対し約1.7%削減できました。

なお、総合環境委員会^{*2}の委員長として、各部門の取り組み状況を確認する当社独自の「環境パフォーマンス評価制度」^{*3}に則り、この2月から3月にかけて各事業所や各専門委員会に赴き、それぞれの活動状況について直接ヒアリングを行いました。その結果、全般的に環境の取り組みは順調に進んでいることが確認できました。しかし、一部には目標達成のための改善余地も見受けられましたので、今後とも継続的な改善を進めてまいります。

これからもすべての段階をクリーンに

今年1月より自動車リサイクル法が施行され、また、2月には京都議定書が発効されました。ますますメーカーの責務は大きくなってきています。私たちは、リサイクルに配慮した商品の開発や、燃費や排出ガス性能の向上、環境負荷物質の削減など、“ライフサイクルにおいて環境への負荷が少ない商品”の開発に引き続き注力してまいります。生産段階においても省エネルギー活動、CO₂排出の削減や廃棄物削減活動などをさらに加速し、また、お取引先からの調達段階、商品の輸送段階、販売サービスの段階、そして使用済みとなったものの廃棄(リサイクル)段階などあらゆる段階で環境負荷を低減する取り組みを続けていきます。そしてこれらの活動を国内及び海外の関係会社も含めた富士重工業グループで進めてまいります。

企業の社会的責任への積極的な取り組みが要求されつつある中で、「環境・社会報告書」として社会性報告の部分も記載させていただいております。今後、さらに充実した内容とする所存ですので、ご高覧をいただき、ご意見、ご感想を賜れば幸いです。

環境担当役員
代表取締役副社長

鈴木 浩

- * 1 EMS : Environmental Management System
- * 2 総合環境委員会については11ページを参照下さい。
- * 3 環境パフォーマンス評価制度については13ページを参照下さい。

◆環境シンボルマークの設定について



2005年6月に、スバル・グループの環境シンボルマークを設定致しました。

環境シンボルマークの中心に「葉」をデザインし、「緑の大地」と「青い空」の地球をコンセプトとし、富士重工業の環境方針に述べられている「地球と社会と人にやさしい商品と環境づくり」に積極的に取り組んでいく想いをこのマークに込めました。

スバル・グループは、常に環境と事業活動の深いかかわりを認識し、地球と社会と人にやさしい商品と環境づくりに努め、豊かな未来の実現を目指してまいります。